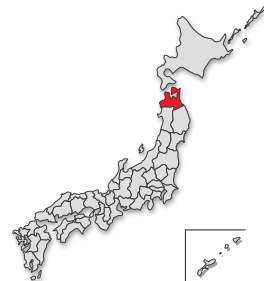
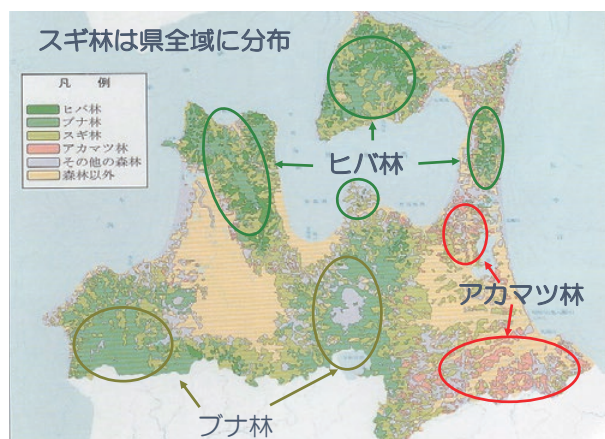


青森県産材「A-wood」 利用拡大に向けた取組

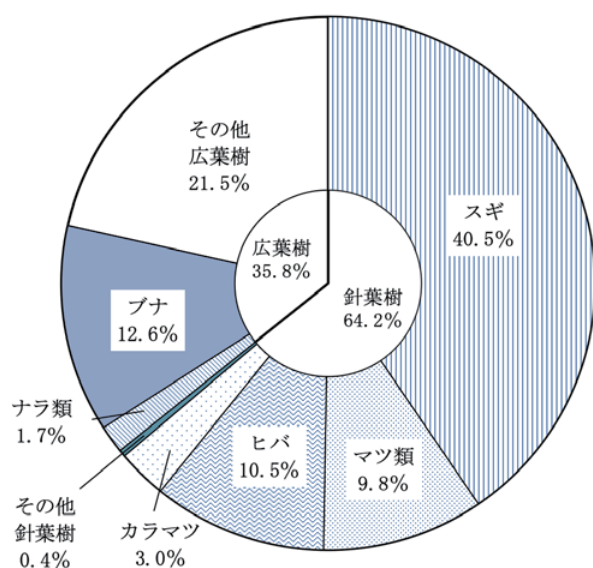
青森県農林水産部林政課



青森県は本州の最北端に位置し、三方を海に囲まれた多様な地形と気象により、全国で唯一「森」を有する県名にふさわしく、豊富な森林資源に恵まれています。日本三大美林の一つであるヒバを始め、白神山地や八甲田山のブナ、県南地域のアカマツ、そして全国第4位の人工林面積を誇るスギなど、63万ヘクタールの森林面積に多様な樹種が分布しており、素材生産量は全国第8位となっています（令和5年農林水産省木材統計）。



【樹種の分布状況】



【青森県の樹種別蓄積量】

一方で、県内の製材工場数や製材品出荷量は少なく、建築用材として使われる県産材の割合も全体の1割程度と推計されるなど、住宅はもとより公共施設や民間商業施設での利用が進んでいないことが課題となっていました。

そこで、青森県で生産、加工、利用される木材を「A-wood」と称し、その需要拡大と供給体制を整備するため、今年度から新たに、「A-wood」需要拡大総合対策事業を実施していますので、その取組についてご紹介します。



【A-wood ロゴマーク】

建築事業者の県産材利用に対する支援

建築用の木材を県産材へ転換していくため、工務店など民間建築物の施工者に対し、県産材の使用量1立方メートル当たり5万円、1棟当たり50万円を上限に支援する事業を実施しています。

事業実施には、県産材の積極的かつ計画的な利用を宣言する青森県「A-wood」事業者に登録する必要があり、現在60者以上が県の登録を受けています。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/rinsei/A-wood_member.html



支援事業を契機に県産材利用に取り組んだ「A-wood」事業者が、今後の利用拡大に貢献してくれることを大いに期待するところです。



【A-wood 需要拡大事業を活用した住宅】

製材事業者への支援

県産材の利用を進めるに当たっては、価格競争力や供給体制、品質の面で外国産材や県外産材に劣るという需要側のマイナスイメージや、安定需要が見込めないため設備投資や流通体制の整備が進まないという供給側の事情がネックとなっていました。

そこで、短期的な取組として、製材事業者等に対し、生産性向上に必要な製材関連設備の導入に要する経費を支援する事業を実施しました。また、長期的な取組として、それぞれの工場の強みを生かした水平連携によるネットワークづくりや、製品情報を正確に伝えていくための木材リスト及び相談窓口づくりに向けてワークショップを開催するなど、関係事業者との意見交換を行っているところです。



【地域材活用ワークショップの様子】

公共建築物における県産材利用の推進

県産材を使うことで地域経済の好循環が図られ、森林資源の循環利用、ひいては青森県の自然と生活環境を守ることに繋がるということを、広く県民に伝えていくためには、公共施設で利用することが効果的です。そこで、県庁各課が連携して県有施

設等での県産材利用を推進することを目的に、昨年8月に知事をトップとした「青い森県産材利用推進会議」を新たに設置したところです。

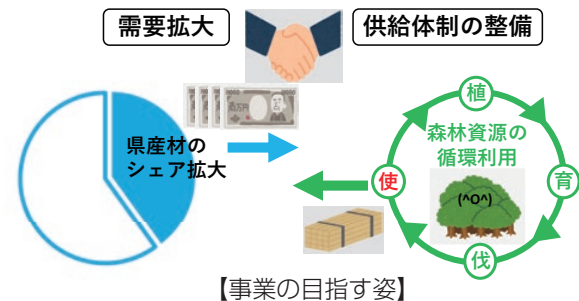
また、9月には具体的な行動計画である「令和7年度青い森県産材利用推進計画」を策定し、毎年度、県産材の利用目標や前年度の利用実績を取りまとめ、利用上の課題を検証しながら、県が整備する建築物について原則木造化と内装等の木質化を目指して、県産材の使用を第一に検討していくこととしています。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/rinsei/riyou_actionplan.html



「A-wood」需要拡大総合対策事業

木材の地産地消により、
地域経済の活性化と森林の循環利用を目指す



終わりに

県産材利用の必要性や、木を使った建物の良さは、多くの人が認めるところですが、実際の「使う」という行動につなげていくためには、事業の周知・PRを徹底していくとともに、現場の声を聴きながら、事業内容を改善・発展させていくことが必要です。

本県の取組はまだ始まったばかりですが、将来的には、県産材の利用が次の森づくりにつながることを広く県民の方に実感していただけるよう、人と森の距離を縮めながら、県産材の利用がスタンダードとなることを目指して、「A-wood」の街づくりに取り組んでいきたいと考えています。